

## 「第二の象牙の奇跡」を目指して

コーヒー豆・カカオの産地として知られるコートジボワールは、西アフリカの中心国の一つです。2000年代の混乱で、社会・経済が停滞したものの、2011年のアラサン・ワタラ大統領の就任、続く国民議会選挙の実施を経て、国全体が復興に向けて大きく動き出しています。

現地での混乱が収束すると、JICAはいち早く職員を再配置し、コートジボワール最大の都市・アビジャンの都市計画づくりに着手しました。かつては「西アフリカのパリ」と呼ばれた美しいアビジャンは、都市化の進行による無秩序な土地利用、生活インフラ・公共投資の不足など、厳しい現実に直面しています。これらの課題の解決に向け、JICAは2012年から調査を開始。現状把握と従来のアビジャンの都市整備計画の評価・分析などを進めました。そして2013年2月からは、本格的な協力を開始し、2030年を目標年度とする都市整備計画や都市交通計画の策定に加えて、人材育成や、都市計画分野の研修員を日本で受け入れるなど、幅広く取り組んでいます。

また、さらなる経済復興が待ち望まれるなか、民間セクター支援にも力を入れ始めています。これは、現地民間企業の発展と、今後の本邦企業進出に向けた官

民連携についても強化する予定です。加えて、農業・漁業各分野の発展に向け、農業技術アドバイザーと漁業・養殖技術アドバイザーをそれぞれ派遣し、コートジボワールの食料安全保障の改善に貢献する支援を展開しています。

これらの取り組みに加えて、コートジボワールの復興支援・国民和解に向けた支援を進めています。特に、混乱期に大きな影響を受けたアビジャン市内やコートジボワール中部・北部について、そのコミュニティ支援や人材育成を通

じた国民和解・社会統合を進めるプロジェクトの実施に向けて、準備・調査を進めています。

コートジボワールの平和・復興は、西アフリカ全体の平和と安定にとって極めて重要であり、今後も支援を加速していく方針です。



アビジャン市内の主な交通手段や通勤時の混雑状況